NIE実践報告

1．タイトル：☆パスファインダーの作成による、図書館メディア活用方法の取得

2．学校名

北海道札幌静修高等学校

3．実践者名（代表者名）

妹尾知哉

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・地理歴史公民　25人

6．単元（本時の学習課題）名

「パスファインダーの作成」

7．目標(狙い)

高校生活全般における学習活動をより効果的なものとするため、新聞の取り扱い方法の習得を軸に、これを補完する図書館メディアの活用方法を定着させる。

8．評価の視点

如何に多くの資料・情報を収集できたかではなく、如何に多角的な資料・情報を収集できたかに注目する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞の基本的な理解」（4時間）　「新聞及び図書館メディアを使っての調べ学習」（6時間）　「パスファインダーの作成（展示含む）」（8時間）　合計18時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞そのもののオリエンテーションと記事検索能力及び読解力の育成。（4時間）
②新聞記事を使った意見表明と意見交換。（6時間）
③各問題の基礎的理解と図書館メディアの活用。（8時間）

（留意点）
・一連の作業を楽しみながら行うことで、より新聞に親しみをもたせ、また記事検索能力及びやや生徒には親しみにくいであろう新聞の文章を読み解く力を育成する。
・メディアリテラシーの基礎を構築し、また同じ視線にある生徒相互の意見交換によって、新聞記事に対する受け取り方の個人差の存在、多種多様な価値観の存在を生徒に実感させる。
・実際に完成したパスファインダーを、図書館司書に図書館内に展示してもらうことで、生徒にその喜びを実感させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

資料や情報を収集することを通して、ごく自然に図書館メディアの活用の幅が広がっていった。また出来上がったパスファインダーを見て、満足げであった。

12．成果と課題

生徒各自の資料・情報収集活動の成果が、パスファインダーという"形あるもの"として展示できたことは、生徒にある種の達成感を与え、今後の生徒による図書館メディアの自主的活用へとつながることが大いに期待できる。
しかし課題として残るのは、メディアリテラシーの育成が不十分ということで、資料・情報収集の際に求められる選別能力がまだまだ低く、これを高める必要性がある。